

資源添加率向上技術開発研究(クルマエビ)

(予算区分 行政費 研究期間 平成 20～ 年度)
担当：水産技術研究所 浜名湖分場 吉川康夫

【研究の背景とねらい】

クルマエビは浜名湖の重要資源であり、資源増大のため種苗放流が行われてきました。その結果、放流以前(昭和 40～54 年)の平均漁獲量は 47 トンでしたが、放流以降(昭和 55～平成 9 年)には 67 トンまで増加しました。しかし、平成 10 年以降は激減し、直近 10 年間の平均は 10 トンを下回っています(図 1)。この減少の原因究明と放流手法の最適化により、漁獲量の回復を目指します。

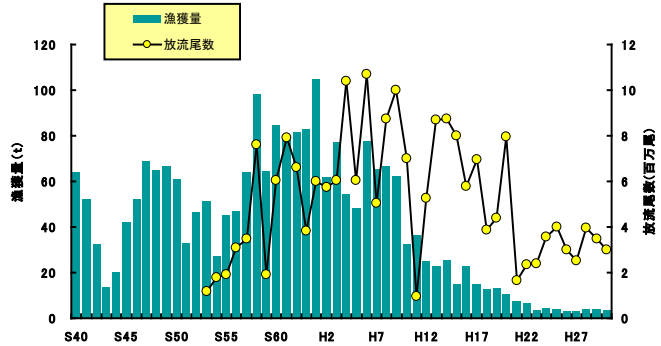


図 1 浜名湖におけるクルマエビ年別漁獲量と種苗放流尾数

【これまでに得られた成果】

(平成 29 年度までの成果)

- ・市場に水揚げされたクルマエビの体長測定を行い、天然群と放流群を分離した結果(群分析)、平成 22～25 年度放流群の回収率は平均 7.8%と推定されました。
- ・平成 23 年放流群の放流効果を DNA 分析から検討した結果、回収率は 0.3%、と推定されました。
- ・平成 26 年以降、従来放流していた湖南部に加え、湖奥部への放流を実施しています。

(平成 30 年度の成果)

- ・平成 29 年度に(公財)静岡県漁業振興基金の協力を得て、①～⑤の放流群を放流しました(表 1、図 2)。放流月、湖域、湖奥部放流による放流群ごとの回収率の違いを明らかにするため、平成 29 年度に種苗生産に使用した親エビと平成 30 年度に湖内で漁獲されたエビについて DNA 分析を進めています。

表 1 平成 29 年度のクルマエビ種苗放流実績

放流群 No.	主な検証項目						放流箇所	放流尾数(万尾)	平均体長(mm)
	放流月		湖域		湖奥部放流				
	8月	10月	本湖	庄内湖	湖奥部	湖南部			
①	○			○	○		平松	110	14mm
②	○			○		○	白洲	64	14mm
③		○	○		○		横山海岸	44	21mm
④		○	○			○	女河八幡	74	21mm
⑤		○		○	○		平松	56	20mm
	2	3	2	3	3	2	-	348	-

放流箇所



図 2 放流箇所

【期待される効果】

放流手法の最適化により、クルマエビ資源の回復が図られます。

【今後の計画】

DNA 分析等により放流効果を検討し、減少原因究明と放流手法の最適化を目指します。

(作成 平成 31 年 4 月)